

病理診断科

部長 中嶋 絢子

I. 職員構成

●病理医 5名（常勤 2名、非常勤 3名）

常勤 部長 中嶋 絢子 病理専門医(3407), 研修指導医,
細胞診専門医(3690), 死体解剖資格
坂西 誠秀 病理専門医(3787), 死体解剖資格

非常勤 戸井 慎（高知大学医学部附属病院病理診断部 准教授）
死体解剖資格, 病理専門医(2534), 研修指導医, 細胞診専門医(2657)
筒井美帆（高知大学医学部病理診断部医員）
死体解剖資格, 病理専門医(3664), 細胞診専門医(4099)
和田 倫子（高知大学医学部病理診断部医員）
死体解剖資格, 病理専門医(3949)

●臨床検査技師 6名

副部長 橘 知佐 細胞検査士(6880)
島崎 真由 細胞検査士(9975)
今本 隼香 細胞検査士(8630)
尾崎 綾乃 細胞検査士(8654)
倉松 保奈実 細胞検査士(10071)
岩崎 麗子 細胞検査士(11212)

※内視鏡センター部門の業務をローテーション方式で兼担しているため、
通常3~4人体制で病理業務を遂行

●クラーク 5名

白川葉子、真鍋厚美、上田亜耶、古味善美、志手千鶴

※ローテーション方式 通常は1名

●常勤病理専門医は2名、高知大学医学部附属病院・病理診断部非常勤講師医は3名の5名体制であった。病理検査室では、細胞検査士は5名であった。

病理組織診断件数は4510件（前年比13.0%増）、迅速診断は129件（前年比69.7%増）、細胞診断は1291件（前年比1.9%減）、病理解剖は12症例（前年比14.3%減）であった。

2024年4月に乳腺外科が開設されたことにより、迅速病理組織診断件数が増加した。また、Roche社の免疫組織化学染色装置 VENTANAを導入した。それに伴い、MMR (MSI 検査)、HER2 (乳癌・胃癌・大腸癌)・CLDN18 等、従来外注していた検査が実施できるようになった。また、迅速な結果が提供でき、迅速な治療につながっている。

II. 担当業務 (資料1). 各資料の詳細は以下、資料編を参照ください)

概説：2024年の通常担当業務量は10年前と比較して、病理組織診断件数は倍増しており、細胞診断件数は約500件増加している。剖検数は12例(剖検率3.4%)であった。

2024年の病理組織診断件数合計4510件のうち、手術材料の診断件数は1679件、内視鏡による消化管のポリペクトミー、EMRおよびESDの合計件数の診断件数は1064件、生検組織の診断件数は1767件であった。

資料2は2024年の月毎、各科毎の通常の病理業務件数、**資料3,4**は細胞診断の内訳、**資料5**は12例の病理解剖の臨床診断、および**資料6**は月毎の剖検率を示す。

初期臨床研修での病理解剖に関する必修項目を完全に充足するため、各研修医は病理解剖に立ち会い、剖検所見の記載を経験してもらっている。月例CPCにおいては、主治医の指導の下に症例を考察し、症例提示や質疑応答を行う。最終的に、CPCレポートの作成を行い、これらの病理解剖症例の一連の研修としている (**資料7,8**)。

さらに本年は、1名の初期臨床研修医が病理診断科で選択研修(合計4週間)を行い、初期臨床研修医に対する外科病理学の有意義かつ適切な教育、指導が病理診断科の新しい業務として継続されている。

[資料]

①病理組織診断の診断件数

- 2024年の病理組織診断件数合計4510件のうち、手術材料の診断件数は1679件、内視鏡による消化管のポリペクトミー、EMRおよびESDの合計件数の診断件数は1064件、生検組織の診断件数は1767件であった。術中迅速診断は129件であった。 (**資料1**)
- 生検組織例中、EGD生検(食道、胃、十二指腸、主に胃粘膜生検組織)は480例(約27%)、CS生検(大腸粘膜生検組織)は472例(約27%)となり、その合計952例は生検組織中約53%を占めた。 (**資料2**)
- 手術材料、消化器(polypectomy, EMR, ESD)材料の診断件数2743例中、悪性腫瘍は600例(約22%)を占めた。

②細胞診の実績 (**資料4**)

細胞診断件数1291例中、Class I 828例(64.1%)、Class II 128例(9.9%)、Class III 73例(5.6%)、Class III a 1例(0.1%)、Class III b 5例(0.4%)、Class IV 33例(2.6%)、Class V 212例(16.5%)、判定不能11例(0.8%)であった。

③病理解剖

病理解剖は1年間を通して、原則、平日および土曜日9時から17時までを解剖受付時間として実施した。

2024年は、12症例について御遺族から剖検の御承諾をいただき、剖検率は平均3.4%で、剖検が無かったのは1月、3月、4月、11月、12月で、もっとも件数が多い月で、10月には4例実施した。(資料5,6)

④院内CPC (Clinico-Pathological-Conference 臨床病理検討会)

2006年6月より従来の“医局会CPC”を改め、新たにスタートした“院内CPC(患者さんの医療に直接、間接に携わるすべての職種スタッフが参加する)”は院内の月例行事として完全に定着し、2024年も内容の充実に努めながら、毎月開催し、これまでの通算合計院内CPC数は2006年6月より209回となった。(資料7 院内CPC) 一方、院内CPC参加者数は18~25名、出席者が固定する傾向が認められ(資料8)、2024年は、コロナ感染状況に落ち着きが見られ、通常開催で実施した。

Ⅲ. 医学教育支援

- ・病理診断科、病理部門：高知大学医学部 学外臨床実習

(病理診断科,各自、毎週月～金曜日)

5年生 1名 (2024年11月11日～11月15日)

- ・中嶋 絢子、坂西 誠秀：研修医指導

初期臨床研修医 1名(選択研修 1ヶ月 2024年2月5日～3月3日)

- ・坂西 誠秀(病理医)：近森病院附属看護学校 病理学講義担当

2024年6月12日～9月11日 90分/8回(試験含む) 合計12時間

- ・今本 隼香(臨床検査技師)：龍馬看護ふくし専門学校

臨床放射線・検査 病理学的検査講義担当 2024年10月29日 90分 非常勤講師

※学術発表・講演会等

学会発表演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
小範囲に神経内分泌成分を伴う胃癌が形態で判別しがたい神経内分泌成分のみの肝転移を来した一例	中嶋絢子	第 113 回 日本病理学会総会	2024 年 3 月 28 日-30 日
淡明細胞型腎細胞癌内に微小な肺原発腺癌の tumor-to-tumor metastasis を認めた 1 例	坂西誠秀	第 113 回 日本病理学会総会	2024 年 3 月 28 日-30 日
心筋生検法による心筋炎診断の実際と病理検査の関わり	今本隼香	第 34 回 高知県臨床細胞学会 総会並びに学術集会	2024 年 3 月 9 日
肺動脈吸引細胞診により肺腫瘍血栓性微小血管症と診断し得た胃癌の 1 例	今本隼香	第 65 回 日本臨床細胞学会 春期大会	2024 年 6 月 8 日
EUS-FNA における ROSE で鑑別を要する膵腫瘍疾患	島崎真由	第 63 回 日本臨床細胞学会 秋期大会	2024 年 11 月 16 日-17 日
一般病院で開催する EMB case discussion (シンポジウム)	中嶋絢子	第 46 回 心筋生検研究会 学術集会	2024 年 12 月 6 日-7 日

資料7. CPCタイトル一覧（2024年）

回	通算	実施年月日	出所	病棟	検討症例	司会	臨床担当（研修医）	参加者数
1	203	1月25日	内科	ICU	急性心筋梗塞を発症し、PCI、補助循環を施行しするも47日の経過で死亡した症例	中岡洋子	野村真緒 橋本温子	20
2	204	4月25日	内科	ICU	心不全、呼吸不全を契機に入院し、悪性リンパ腫と診断され化学療法を開始したが、呼吸不全、多臓器不全のため11日の経過で死亡した症例	上村由樹	山本達之 松田莉奈	25
3	205	5月23日	内科	HCU	急性心筋梗塞にて救急搬送され、IABP下にPCI施行するも、IABP抜去後循環動態が保てなくなり、7日間の経過で死亡した症例	細田勇人	松田莉奈 山本真梨子	23
4	206	7月25日	内科	HCU	MSSA菌血症、多発膿瘍にて加療し回復過程にDIC、多臓器不全を発症し死亡した症例	石田正之	吉宗冨 秋澤麗菜	18
5	207	8月22日	内科	ICU	SARS-Co-2感染による肺炎、呼吸不全にて加療中に小脳梗塞を来し死亡した症例	中岡大士	山本真梨子 吉宗冨	25
6	208	10月24日	内科	6A	菌血症、多発膿瘍、ARDSないし間質性肺炎による呼吸不全にて死亡した症例	石田正之	秋澤麗菜 宮地博紀	22
7	209	11月28日	内科	6	前立腺癌からの多発肝転移、S状結腸転移が疑われた症例	大川良洋	池田裕菜 大東雄太	22